

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第2回 深谷市総合教育会議	
開催日時	令和8年2月18日(水) 午後1時30分開会・午後2時30分閉会	
開催場所	深谷市役所 3階 大会議室	
議長氏名	小島市長	
出席者氏名	出席者名簿のとおり	
事務局出席者氏名	出席者名簿のとおり	
会議事項	<p>1. 議事</p> <p><協議事項></p> <p>(1) 深谷市における不登校対応について</p> <p><報告事項></p> <p>(1) 地域学校協働活動推進に関する研究委嘱について</p>	2. 会議結果 承認
会議の経過 (議事の要旨)	別紙のとおり	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度第2回深谷市総合教育会議 次第 ・令和7年度第2回深谷市総合教育会議 構成員名簿 ・深谷市における不登校対応について(協議資料1) ・令和6・7年度 地域学校協働活動推進に関する研究委嘱(報告資料1) 	
その他の事項	-	
会 議 録 の 確 定		
確定年月日	議長署名	
令和8年3月18日	小島 進	

別紙

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容(要旨)・決定事項
<p>議長</p> <p>事務局</p>	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 教育長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>※深谷市総合教育会議運営要綱第4条第1項の規定により、市長を議長として議事を進行</p> <p>《協議事項》</p> <p>(1) 深谷市における不登校対応について</p> <p>(事務局から説明)</p>
<p>寺山委員</p>	<p>【深谷市の不登校児童生徒の対応のためにどのような施策を行うべきか、不登校の未然防止の視点および不登校になってしまった児童生徒への支援についての視点から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校になる児童が年々増えているが、集計の仕組み上、不登校になった児童生徒の学年が上がり、そこに新たに不登校になった者が加わっていくので基本的に減ることはない。 ・ゆえに、なってしまった人の支援が大事かと思う。市の施策も数字として見えにくいが確実に効果があると思う。 ・不登校になってしまった人でも社会に出て成功している例もある。そういった方の話を聞く機会があればいいと思う。
<p>栗原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市の教育現場では、欠席状況の調査からその理由などまで把握し、長期の休みにならないよう個別にケアしていただいている。 ・アプローチルームについても全小中学校に整備されており、他自治体と比べても環境が良く、居心地のいい場所になっている。 ・元教員で経験豊かな総合支援員が支援する体制が構築されており、家庭訪問をして子供や保護者に声かけをしている点もありがたい。一方、支援員がいない時間帯には児童生徒にストレスが生じやすくなると思われるため、利用状況に応じて対応時間の拡充を検討していただきたい。 ・関係機関と繋がっていない不登校児童生徒の割合が少なく、成果が出ていると思う。 ・保護者への支援も重要であり、不登校となったのちも、大学進学など将来の選択肢や進路があることを保護者が理解し、子どもに伝えられるような取り組みがあると良い。

発言者	議題・発言内容（要旨）・決定事項
<p>荒井 教育長職務代理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の教育環境については、国連から子どもの「遊ぶ権利」「休む権利」の侵害を指摘されている状況であり、競争主義的な学校環境とストレスが不登校の原因の一つであると考える。 ・ゲームやネットによらない遊びの充実によって、想像力や社会性、自尊心がはぐくまれる。また、遊びを通じて主体的な成功・失敗の経験をすることで、非認知能力が育成される。 ・子供が外遊びできる場所が減少し、また温暖化による猛暑の影響もあり、外遊びの機会が減っている。外遊びや自然に触れることのできる場所や機会を提供し、子どもたちが自由に過ごせるような施策の実施を希望する。 ・デジタル機器を全く使わない日を設けるなど、生活のなかでデジタルとアナログのバランスをとることが大事だと考える。
<p>久保田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さない」という表現ではなく、「みんなが嬉しい、みんなに優しい」視点の不登校対策を希望する。 ・大人が平等・公平に向き合い、寄り添う姿勢を示すことで、子どもは自身が一人の人間として尊重されているという実感を得て、安心感と自信を持って生活できるようになると考える。 ・現在、不登校支援の場となっているアプローチルームやフリースペース等について、重要な役割をはたしている一方で、学校へ戻るための一時的な居場所というイメージがあるため、不登校の先につながる安心感が得られにくいと感じる。 ・民間のフリースクールについて、学費が無償となるよう支援し、また公的な学校として扱い、卒業資格を得られるような選択肢が増えると良い。 ・子どもの見守りや送迎などで保護者が働けなくなってしまう例もあり、また、関係機関と繋がりを持ちながらも解決できない問題を抱えることもある。専門家を交え、チームとして見守り、子どもの将来までに届けていくような支援を希望する。 ・先日の市町村教育委員会研究協議会における部活動の取り組みについて、週5日から日数を減らして地域展開する例を耳にした。体力的・精神的に週5日が難しい子供にも居場所ができる、良い取り組みだと思う。 ・不登校になってしまった児童生徒にも、いろいろな選択肢や将来があることを示し、子どもも保護者も希望を持てるような支援の構築を希望する。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校を経験した方に、将来に向けてどのような選択肢があるか伺うような機会があると良いと思う。 ・「誰一人取り残さない」という方針へのご意見について、寄り添う気持ちの大切さを再確認した。 ・都市部、農村部での不登校の発生率の違いなど、詳しく研究してみてはどうか。 ・不登校から学校に戻ったのち、再度不登校となってしまった児童生徒の割合や原因についても分析してほしい。

発 言 者	議題・発言内容（要旨）・決定事項
教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・競争社会に生きる子どもたちへの支援は、大人の意識が重要だと考える。大人が輝いている姿を見せ、子どものあこがれ、目標となるような環境が重要であると考え。 ・わんぱくランドが閉園となり、仙元山公園全体を整備する中で、山の環境を生かして子どもたちだけで遊べるような場所を作るなど、いろいろな発想をもって取り組んでほしい。 ・「誰一人取り残さない」というのは、教育側からの視点での考え方になっている。久保田委員の発言にあったが、「みんなが嬉しい、みんなに優しい」といった視点からの支援を検討したい。 ・不登校の発生率については、学校による偏りはある。地域性等を含め、原因を考えていきたい。 ・学校は社会の縮図という面があり、そこから切り離されてしまうのは子供にとっても苦しいものだと考えている。一人でも多くの子どもたちを社会に繋げていきたい。
議長	<p>《報告事項》</p> <p>(1) 地域学校協働活動推進に関する研究委嘱について</p>
事務局	<p>(事務局から説明)</p> <p>(質疑なし)</p>
事務局	<p>5《その他》</p> <p>(なし)</p> <p>(質疑なし)</p>
事務局	<p>6 閉会</p>

以上